

やはぎようちえんのえんていには、カエルがいっぱいいます。しょくいんしつでかえるのなきごえをききながら、こんなおはなしをつくってみました。

カエルのきりなしばなし

さとう のり

むかし、あるやまのなかに、みわたすかぎりのたんぼがあった。

やまのうえからしたにめがけてかいだんのように、たんぼがだんだんとなってひろがっていた。だれがおしえたか知らないが、そのだんだんは、1000だんもあったそう

な。はるがくると、たんぼにカエルがたくさんでてる。

いちばんうえのたんぼには、1000びきものカエルがあつまり、いちばんしたのたんぼにも1000びきのカエルがあつまった。

うえのたんぼにあつまったカエルはみんな、いちばんしたのたんぼまでとんでみたくなった。

カエルたちは、「いっぴきずつとんでいくことにしよう。」といって、みんなで「いこか。いこか。いこか。いこか。」とないた。したのほうにいるカエルは「くるならこーい。くるならこーい。」となきかえした。

そこで、いちばんはじめのカエルが、ぴょ～ん、ぴょ～ん、・・・と。いちだんずつしたにおりていった。

するとすぐに、またうえのたんぼから「いこか。いこか。いこか。いこか。」したのたんぼから「くるならこーい。くるならこーい。」そこでつぎのカエルがいっぴき、ぴょ～ん、ぴょ～ん、ぴょ～ん・・・。

「もうだいぶとんだかな。」わかいカエルが、となりのとしよりカエルにたずねた。

「まーだまだ。カエルは、1000びきもおるし、たんぼは1000だんもあるし、まだまだ さきはながいでー。」としよりカエルは、のーんびりとこたえた。

そうするあいだにも、かえるはとびつづける。

「いこか。いこか。いこか。いこか。」「くるならこーい。くるならこーい。」ぴょ～ん、ぴょ～ん、ぴょ～ん・・・。

「いこか。いこか。いこか。いこか。」「くるならこーい。くるならこーい。」ぴょ～ん、ぴょ～ん、ぴょ～ん、・・・。

「いこか。いこか。いこか。いこか。」「くるならこーい。くるならこーい。」ぴょ～ん、ぴょ～ん、ぴょ～ん・・・。

いつまでたってもきりがないこと。

これがきりなしばなし。

おしまい。

